

就農希望者の各段階における就農準備留意事項の明確化

～就農希望者が就農の適性或準備状況を自己診断できるチェックシートを作成～

水野睦実（農業総合試験場普及戦略部戦略統括室）

【2026年7月掲載】

【要約】

就農希望者が自ら就農の適性或準備状況を自己診断できる「新規就農適性チェックシート」を新規就農者の協力を得て作成し、「就農相談前」、「就農準備（初期）」、「就農準備（後期）」の各段階の就農希望者へチェックシートの試行とアンケート調査を実施した。その結果、いずれの段階においても「新規就農適性チェックシート」は就農希望者が就農に向けて現在の状況について確認し、必要な準備を進めるためのツールとして役立つことが明らかとなった。

今後は、多くの就農希望者が活用できるようチェックシートを公開し、自らの就農への道筋の明確化と円滑な就農に役立てる。

1 はじめに（目的）

就農希望者は、就農相談前には就農の適性或就農に必要な条件を十分理解しておらず、相談時に初めて就農の厳しさを認識する人が大半である。

就農に繋がる個別相談、効果的な相談体制を整えるため、就農する前の農業の適性診断や就農に必要な事項を明確にする一次相談、就農地や品目を決めて就農の準備を行う二次相談の各段階で、自ら就農の適性或準備状況を自己診断できるチェックシートを検討・試行し、その結果から留意事項を明確にする。

2 調査方法

(1) 調査期間：2025年4月～12月

(2) 調査対象：新規就農者、農起業支援ステーションの就農相談者（就農相談前）、農起業支援センターの就農相談者（就農準備初期）、農業大学校ニューファーマーズ研修生（就農準備後期）

(3) 調査内容

ア 新規就農者への「新規就農適性チェックシート（案）」に対する意見の聞き取り

イ 就農希望者へのチェックシートの試行とアンケート調査の実施

(4) 調査及び方法：新規就農者及び就農希望者へチェックシートによる自己診断の実施

3 結果

(1) 新規就農者への「新規就農適性チェックシート（案）」に対する意見の聞き取り

県内の農起業支援センターのうち6か所の農起業支援センターの計7名の新規就農者（就農2～7年目）に、「新規就農適性チェックシート（案）」の内容に対する意見を聞き取り、各項目やチェックシートに追加すべ

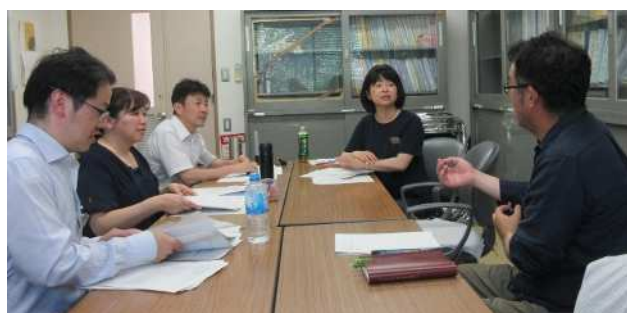


写真1 新規就農者へ意見を聞き取り

き内容を確認した。

調査対象者からは、「就農相談前の就農を検討し始めた頃は、農業の実際が分からないため、基本的には必要な項目について知っていればよい」という意見が多かった。

「就農準備（初期）」については、最低限の生活費確保、開業資金を事前に準備しておく必要性が強調された。一方、明確に〇〇万円以上の開業資金が必要、とすると、就農へのハードルが上がりすぎてしまうことを心配する声もあった。

「就農準備（後期）」については、就農に向けたスケジュールを作成する必要があること、また特に、農地確保が重要であるとの意見が多かった。

(2) 新規就農適性チェックシートの作成

「新規就農適性チェックシート(案)」に対する意見を参考に、「新規就農適性チェックシート」を作成した。

「就農相談前」は、就農を考え始めた時期の方を対象に、7つのチェック項目について「はい・いいえ」で回答すると、チェック項目に関するアドバイスが提示される。

「就農準備（初期）」は、就農地・就農品目が決まり二次相談へ移行する時期の方を対象に、「就農準備（後期）」は、研修を開始し、就農に向けた準備を進めている時期の方を対象とする。それぞれ10のチェック項目について4段階（知る、理解する、行動する、準備が整う）で回答すると、「現在のあなたの就農準備状況」としてレーダーチャートが表示され、不足している項目が視覚的に分かる。

また、それぞれの項目についてアドバイスが表示されるように作成した。

(3) 就農希望者へのチェックシートの試行とアンケート調査の実施

改良したチェックシートを、実際の各区分の就農相談者に試行した。

ア 就農相談前

農起業支援ステーションの就農説明会に参加した23名に対し、説明会開始前にチェックシートを試行した。チェックした結果から出たアドバイスを対象者に返却し、アンケートを実施した。ほとんどの対象者が7つのチェック項目全てに「はい」と回答し、就農に対する関心や意欲の高さがうかがえた。また、チェックシートは7割以上、アドバイスは8割以上の対象者が「役に立つ」と回答した。

イ 就農準備（初期）

二次相談に移行し、農起業支援センターで就農相談対応した研修前の11名の就農希望者に対し、「就農準備（初期）」チェックシートを試行した。チェック結果から出たアドバイスを対象者に返却し、アンケートを実施した。結果は、農業経験（研修）、運転免許は4段階のうち平均3

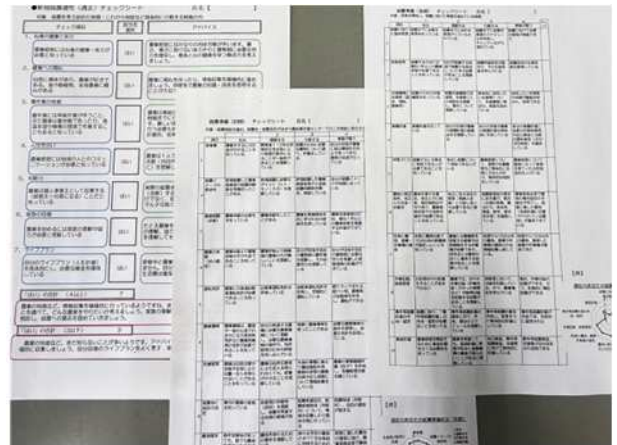


図1 新規就農適性チェックシート

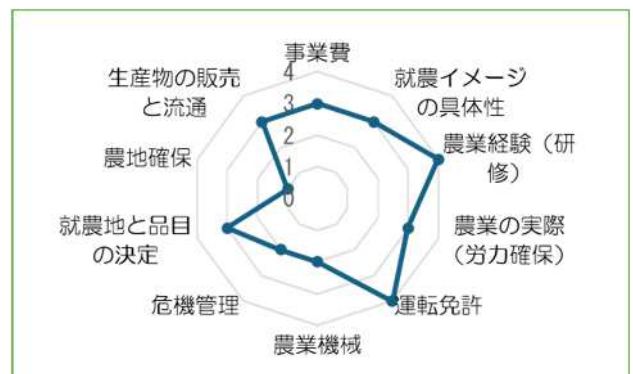


図2 例：現在の就農準備状況（初期）

以上で、対象者の多くが既に「行動する」以上の状態であった。農業機械、危機管理、農地確保は2前後と低く、「知る」「理解する」の段階の方が多かった。チェックシートは9割以上、アドバイスは7割以上の対象者が「役に立つ」と回答した。

ウ 就農準備（後期）

就農に向けた準備を進めている研修中の20名に対し、就農準備（後期）チェックシートを試行した。チェック結果から出たアドバイスを対象者に返却し、アンケートを実施した。なお、対象者20名のうち16名は農業大学のニューファーマーズ研修生、3名は尾張、海部、知多地域で研修中の研修生、1名は農業大学の農業技術研修生であった。

各項目の平均は4段階のうち3以上の項目が多く「行動する」以上の段階であったが、「就農に向けた進捗管理」、「支援機関と支援策（認定、補助、融資等）」、「青年等就農計画の作成・認定」、「資金計画」は約2.3と低かった。チェックシートは9割以上、アドバイスは8割以上の対象者が「役に立つ」と回答し、自分のやるべきことが明確になったとの意見が多かった。

4 まとめ（考察）

新規就農者からの意見を参考に、「新規就農適性チェックシート」を作成し各区分の就農希望者に試行した。

試行、アンケートの結果から、いずれの区分においても「新規就農適性チェックシート」は就農希望者が就農に向けて現在の状況について確認し、必要な準備を進めるためのツールとして役立つことが明らかとなった。

「就農準備（後期）」で低い結果となった「進捗管理」については、新規就農者から、就農に向け日程軸で管理すること、就農開始から逆算したスケジュール管理が必要との意見があったことから、就農相談から就農までのスケジュールを具体化するための支援が必要であることが明らかになった。

「新規就農適性チェックシート」が作成でき、就農までに必要な内容を明確にできた。就農希望者が自らチェックし、自らスケジュール管理ができる仕組みを提供するとともに、その状況に応じて就農相談で支援するツールとして活用していくべきと考えられた。

現状では、農業大学の新規就農希望者向け Web ページに今回作成したチェックシートを掲載おり、ダウンロードして活用ができる。今後は、県が開設した農林漁業就業支援プラットフォーム「あいちから」の中で使えるコンテンツとし、スマートフォンで簡単にチェックし、結果を活かすことができる仕組みが望ましい。

農業大学ホームページ掲載のチェックシート URL

①就農を考え始める時期

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/617976.xlsx>

②就農地や品目を決めて本格的に相談する時期

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/617977.xlsx>

③研修を開始し、就農に向けた準備を進める時期

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/617978.xlsx>

その他、新規就農者からは、「非農家から就農向け情報を収集する中で、サラリーマン生活より家族との時間が確保できる」、「農家生活の実際（1日の時間の使い方、農繁期・農閑期等）についてPRが必要」、「農業体験ツアー等就農後の様子が体験できる機会の提供があると良い」、といった意見が出された。担い手の確保に向け、農業の厳しさだけでなく、農業の良さや農家生活の良さについてもっとPRする必要がある。

Copyright (C) 2026, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.